社会医療法人 近森会　院内広報誌

一歩先の医療、一つ先の未来。
CHIKAMORI
HEALTHCARE GROUP

ひろっぱ

Vol.436 11

近森病院附属看護学校
誓いのセレモニー
表紙の写真

医療情報
- コロナとの戦いの記録〈第2回〉
- B5カテ室 バイプレーンへバージョンアップ

近森病院　近森リハビリテーション病院　近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

12月30日(金)～1月3日(火)は 休診 です。 ※近森病院救命救急センターは24時間対応いたします。

医療情報

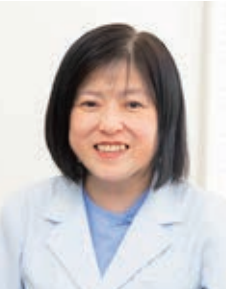
コロナとの戦いの記録

シリーズ 第2回

“一つの災害”ともいえるコロナ禍から、各部署がどの様な影響を受けどの様に対応したか、また、どういった思いで奮闘しているのかなどを情報共有として、また後世に残す記録として当誌で取り上げて参ります。

臨床工学部

臨床工学部 副部長
兼 技士長
平野 友紀
ひらの ゆき



【CS（カーディアックサポート）チーム】

2020年、コロナ患者さんが増え始め、ERにおいてコロナ検査の結果が出るまで待てない冠動脈疾患など、緊急で心臓カテーテル検査を行わなければいけないことがよくあります。防護服を着用し、カテーテル検査の清潔補助を行っています。

【ACE（急性期CE）チーム】

コロナ患者さんが爆発的に増え始め、2021年6月には近森病院にCU病棟（コロナ病棟）が立ち上がりました。呼吸器をつけなければならない患者さんもいらっしゃり、挿管・非挿管の人工呼吸器やネーザルハイフロー（高流量、高濃度酸素投与療法）の装着介助や呼吸器の日常点検、夜間の呼吸状態悪化時の対応をしています。

【ME（保守管理）チーム】

CU病棟内にある、備え付けの血液ガス分析装置など医療機器の消耗品交換や故障などのトラブル対応、陰圧室の陰圧装置のチェックやフィルターの清掃を定期的に行っています。

呼吸状態が悪い患者さんには臨床工学技士が搬送受入れに付き添った。

【HD（血液浄化）チーム】

2022年2月にはCU病棟に透析患者さんが入院され始め、出張透析が行われるようになりました。その後のコロナ患者さんの増加に伴い、コロナ患者さん用の病床を整備した救命救急病棟や北館病棟への出張透析も行いました。

また、コロナ陽性が疑われる患者さんには腎透析センター内の別室で透析を行っています。

臨床栄養部

臨床栄養部
管理栄養士
部長
宮島 功
みやじま いさお

ディスポーザブル（使い捨て）の食器で

当院では、コロナ患者さんに対して、食事はすべてディスポーザブル（使い捨て）の食器で対応しています。給食運用が定まっていない時期から、食器の発注をはじめ、配膳・下膳方法など一連の運用についてICT（感染対策チーム）や病棟、管理部門と連携し安全な食事の提供を行ってきました。調理場では、通常作業に加えディスポ食器に盛り付けを行う作業が加わるため、業務が煩雑になります。2022年2月のクラスター時には、1食で100人分の食事をディスポ食器で提供した日もあり、業務量も膨大になりました。それでも、これまで配膳遅延や誤配膳などの大きな事故がなく安全確実に食事を提供することができました。

ディスポ食器の食事

自律自働して、助け合って

病棟担当の管理栄養士は、クラスター発生時には患者さんの検査結果を自ら確認し、陽性者および濃厚接触者をディスポ食器対応とするなど自分で判断し業務を行っていました。一時は朝食から夕食の配膳時まで看護師の配膳のサポートを行うなど、臨床栄養部総出で対応にあたりました。

エームサービス職員と運用について相談。

専門職としての知識と技能 ～前例がない病態に対しての栄養サポート～

重症患者の栄養サポートでは、8時からCU病棟のカンファレンスに参加し、いち早く情報を収集し早期栄養介入を実施しました。前例がない病態に対して多職種と連携し、その都度文献を検索しベストと思える栄養サポートを行なってきました。特に腹臥位療法を実施した人工呼吸中の患者さんの経腸栄養管理の際は、腹臥位を実施するスケジュールに合わせて毎日のように経腸栄養の投与方法を調整しました。

スタッフ一人一人が自律自働し、今できる精一杯の対応を行い、日々の診療を栄養面でサポートしていきます。

●写真上／レッドゾーン内で食事介助をするため多くの看護師が入るので、グリーンゾーンに手が足りなくなる。その為、管理栄養士がイエローゾーンとレッドゾーンの仕切りまで食事を届けた。
●写真下／最適な経腸栄養を調整するため、患者さんの状態を直接見ている看護師に相談。

リハビリテーション部

近森病院
リハビリテーション部
科長 理学療法士
前田 秀博
まえだ ひでひろ

コロナ患者さんのベッドサイドリハ。まだ起きられない患者さんの場合、手足の関節を動かす関節可動域訓練や、足腰の衰えが進みすぎないよう筋力トレーニングをベッド上で開始する。

密接するリハ診療を安全に

リハ診療は患者さんと医療従事者の距離が近く、接する時間も長いため、感染リスクが高いとされます。2020年3月、COVID-19を視野に入れ「リハ部における感染拡大防止対策」を作成しました。共同使用するリハ室の利用や環境管理、対象患者さんの体調チェック、セラピスト自身の体調管理、出勤時や業務中の標準予防策と個人防護具（PPE）着用遵守の項目を含め、これまで39回改訂しました。

専門的な知識のもと細心の注意を持って

2021年6月からは陽性患者さんのリハを開始しました。2022年2月にクラスターが発生し、セラピストからも陽性者が発生する中、日本リハ医学会から「感染対策指針（COVID-19含む）」が発表され、改めてリハ部の対応を再点検し、細見リハ科部長や感染制御部と相談のうえ「リハ部COVID-19対応目安レベル」を取り決め、院内感染レベルに応じた患者対応、訓練室利用、職種別PPEルールを明確化しました。

クラスターにおいて疑われた、セラピストによる感染拡大への関与は、国立感染症研究所の調査で否定されました。陽性転化する患者さんと接触歴のあるスタッフの不安軽減に向け、メンタルフォローに努めたことには、専門家から賛辞をいただきました。

今後も前に

患者さんに濃厚に関わる業務を考慮して、リハ部の業務体制には制限を加えて運用してきました。正しく恐れ、行動を律して、患者さんへの有害事象を抑止し、部署として今後も前に進んでいきたいと思います。

B5カテ室 バイプレーンへバージョンアップ

2022年
9月27日
オープン

近森病院 副院長
兼 循環器内科 主任部長
川井 和哉
かわい かずや

全国有数の症例数と最新手技導入を支えるために

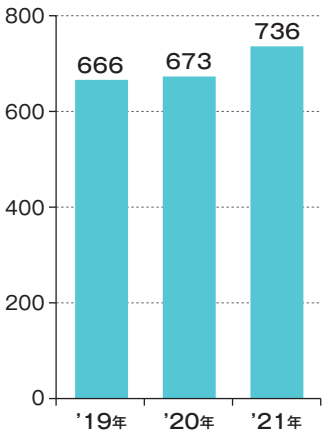
近年、カテーテル治療の進歩は著しく、循環器疾患の治療における重要性はますます増加しています。当院は狭心症や心筋梗塞などの冠動脈の狭窄や閉塞に対する冠動脈カテーテル治療（PCI）や、それ以外の血管に対する治療（EVT）症例数が全国有数です。また、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療や徐脈性不整脈に対するペースメーカー・デバイス治療も増加の一途です。大動脈弁狭窄症に対する経皮的大動脈弁留置術（TAVI）や経皮的僧帽弁修復術（マイトラクリップ®）などの弁膜症治療も県外から紹介されるようになってきました。卵円孔開存に対するカテーテル閉鎖術や心房細動の脳塞栓予防のための経皮的左心耳閉鎖術（WATCHMAN®）も昨年度から開始し全国トップクラスの症例数です。

面積拡大・最新バイプレーン追加で更なる躍進を!

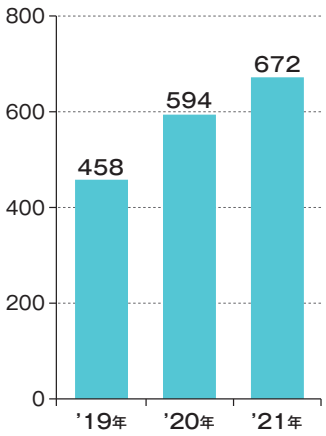
当院では心臓カテーテル検査室3室、ハイブリッド手術室1室の4室体制でカテーテル治療を行っています。今回改修したカテ室は以前はやや狭く、シングルプレーンのためすべての手技に対応できませんでした。症例数の増加にともない効率的な運用に支障をきたし、患者さんやスタッフに負担や迷惑をかけるようになってきていました。

今回、面積の拡大と最新機種のバイプレーン装置にバージョンアップをおこなったことで効率的な運用が可能となり、症例数の増加に対応することができるようになりました。これからも治療レベルの向上と最新の循環器治療を県民の皆様に提供できるように取り組んでいきます。

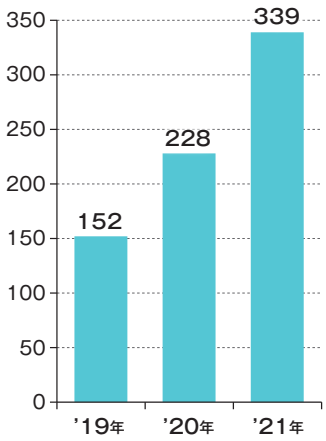
■ 冠動脈カテーテル治療



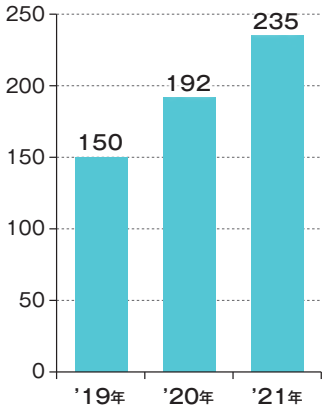
■ 血管内治療（EVT）



■ アブレーション治療



■ デバイス治療
（ペースメーカーなど）



ご寄付いただきました！

株式会社スウィーツ様より ●田野屋塩二郎プチシューラスク

新型コロナウイルス感染症と付き合う生活に慣れて久しいですが、最前線で職務にあたるスタッフにとっては負荷のかかる毎日です。そんな中、「田野屋塩二郎プチシューラスク」は休憩時間にほっと一息つけるスタッフの癒しとなりました。お心遣い、ありがとうございます!

出張

TCT（カテーテルによる心臓病治療学会）参加報告

2022年9月／米国マサチューセッツ州ボストン

近森病院 副院長
兼 心臓血管外科 主任部長
入江 博之 いりえ ひろゆき

台風14号が日本を襲ってくる頃、入れ違いに米国に学会出張に出かけました。かなり専門的かつ先進的な学会です。主に経皮的大動脈弁留置術（TAVI）やカテーテルでの僧帽弁治療の最新の情報を獲得するべく参加しました。今回の学会で驚いたことがいくつかあります。

1.多くの国からの参加者

会場で出会った1人は南アフリカから来ていましたし、参加者名簿を見ると中東やヨーロッパ各国、中国などからも来ていました。参加者名簿には日本人の名前もありましたが、残念ながら会場でお目にかかることは少なかったです。

2、日本では認められていない治療方法を試している

オタク的な会ですので、「え、そんなことしていいの」というようなことを試したりといった報告が多くありました。

3、この会に合わせてFDA（日本の厚労省に相当する）の承認を得た新しい製品の発表

まだ日本には導入されていない医療器具、特にカテーテルでの人工弁等が紹介されていました。

4、参加者が医療関係者だけではない

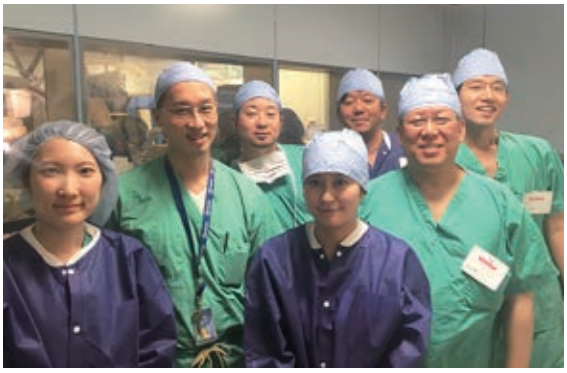
偶然会場で会った人がウェルズ・ファーゴという投資銀行の調査員の人でした。知らないだけかもしれませんが、日本の通常の学会ではこういった方々とお会いすることはほとんどありません。そういった方々が、この会で投資先を探しているというのも驚きでした。

5、Dr.Tangと再会

6年前にTAVIを始めた頃にグループで訪問して見学させて頂いたDr.Tangは、その後施設を移り、現在はニューヨークの真ん中にある病院の心臓外科部門の中で、弁膜症などの治療を行う分野のトップになっていました。子供さんも2人できたとのことで、旧交を温める機会ができました。

▲Dr.Tangと会場で

2020年からコロナが流行し、3年ぶりの米国出張となりました。3年分の情報をまとめて仕入れたことになりますが、日本よりも2世代先の医療器具があったり、大変大きな刺激になりましたし、今後の心臓病治療の方向性を見出だす良い機会となりました。



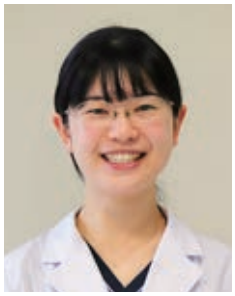
▶ 2016年TAVIを始めた頃にチームでDr.Tangの手技を見学

学会受賞

呼吸器学会地方会での発表

2022年7月9日

近森病院
呼吸器内科・感染症内科
藤原 絵理 ふじわら えり



表彰状

後期研修医演題
優秀演題賞

藤原 絵理 殿

日本呼吸器学会中国・四国地方会
後期研修医演題
優秀演題賞 受賞

演題 喀痰塗抹でのシュウ酸カルシウム沈着（オキサローシス）が診断の契機となったAspergillusnigerによる肺アスペルギルス症の一例

今回、「喀痰塗抹でのシュウ酸カルシウム沈着（オキサローシス）が診断の契機となったAspergillusnigerによる肺アスペルギルス症の一例」について発表させて頂きました。アスペルギルス感染の検査には時間がかかるため、オキサローシスの所見は早期にアスペルギルス感染を疑うきっかけとなり、症例をまとめる中でとても勉強になりました。また、お忙しい中、上級医の先生方には熱くご指導いただき、大変感謝しております。今後も日々勉強しながら学会発表などにも励んでいきたいです。

研修受け入れ

整形外科専攻医としての3ヶ月研修

研修期間／2022年7月1日~9月30日

近森病院 整形外科
手稲渓仁会病院（北海道札幌市）整形外科2年目
茂木 悠平（もぎ ゆうへい）

この度専攻医プログラムの一環として近森病院整形外科で3ヶ月研修させていただきましたのでその内容をここにご報告いたします。

業務としては主に救急患者、入院患者の診療科間紹介、手術の執刀および助手をしました。

骨折の救急患者対応においては、近森病院の先生方は近隣の病院とも提携して昼夜、深夜、土日問わず患者さんの元に駆けつけて診察を行い、必要とあらば緊急手術、と踏み切る姿勢に感銘を受けました。

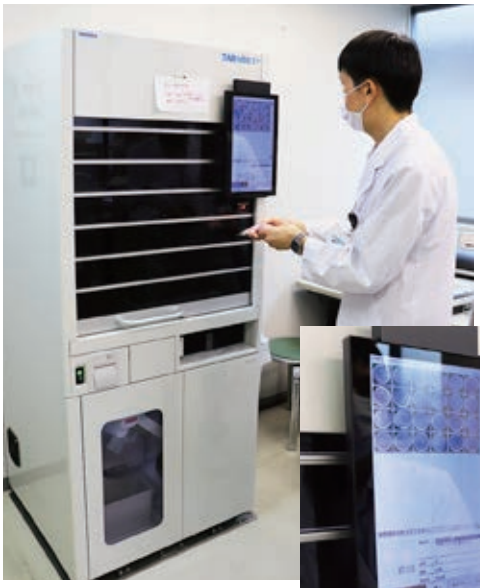
他施設であれば早くて翌日、遅くて次週以降となる骨折手術症例も、近森病院であれば来院日の夕方か翌日には手術をするため、早期手術による早期離床とリハビリという骨折治療の理想を体現しており、患者さんにとって素晴らしい病院と感じましたし、それを実現できる麻酔科、手術室の連携体制も学ぶものがありました。

また、病院全体として医療安全に取り組み、もし何かあれば徹底的に究明して再発防止に取り組む姿勢、働き方改革の流れに合わせて医師の勤務体系も迅速に対応する姿勢は目を見張るものがありました。

この理念を胸に刻み、近森病院で経験した手術症例および技術も持ち帰り、手稲渓仁会病院に戻った後も患者第一の医療を意識して日々診療に邁進していく所存です。

筆者：前列右から3人目。最終出勤日の記念撮影、高知大学の実習生も一緒に。

錠剤仕分け装置「タブソート」導入



▲ 黒いガラス部分から、1錠ずつ判別を繰り返すタブちゃんの健気な姿が見える。

▶ 装置での分包後は人間の目で最終監査し、正確性と安全性を担保している。

新しい仲間「タブちゃん！」

薬剤部 部長 筒井 由佳（つつい ゆか）

3月より薬剤部では錠剤仕分け装置「タブソート」を稼働させています。この装置は一度分包調剤した薬剤をばらして再利用できるようにするものです。

専用のトレイに薬剤をまとめてセットすると、薬剤を1錠ずつ吸い上げて、形状・色・外寸・識別コードの特徴を捉えて判別し、同じ特徴を持つ薬剤を同じカップに集め、カップごとに分包します。分包後に人間の目で最終監査して正確性と安全性の担保を図っています。判別の難しい薬剤に当たると一瞬動作を止め、考えてから再度動き出す様子を見ると思わず「がんばれ！」と応援したくなります。

装置の導入はスタッフの業務負担軽減に大きく貢献しており、24時間365日黙々と、健気に働くこの装置を薬剤部では「タブちゃん」と親しみを込めて呼んでいます。

特定行為研修 実習開始

過去最多受講生にて2022年度看護師特定行為研修の実習がスタート

●写真上／授業単位ごとに研修生自身が講師となるスタイルのため、研修生は割り当てられた単位を自学して、授業当日、仲間に教える。
●写真下／教室の後ろで授業内容を確認する、山脇師長、川村Ns、消化器内科 梅下科長

近森病院
看護師特定行為研修指導責任者
看護師長
山脇 久男 やまわき ひさお

当院で看護師特定行為研修が開講となり、今期で7年目となりました。年々、特定行為研修の認知度も向上し、院内外から過去最高の19名の方が受講されています。

9月まで「共通科目」を主にeラーニングで学び、評価試験にて全員合格となり、10月1日より区分別科目授業が開始となりました。

区分別科目授業では模擬授業やeラーニングを中心に授業を行っています。

現在、新型コロナウィルス感染症も徐々に落ち着いてきており、感染対策をとりながら本年度も予定通り実習を行います。10月末から順次実習に入り2月末まで実習に臨みます。実習が長期間になりますが、皆さまどうぞよろしくお願い致します。

■ '22年度 コース別受講者数

No.	コース名	受講人数
1	栄養コース	3名
2	創傷コース	2名
3	麻酔コース	2名
4	外科基本コース	2名
5	集中コース	6名
6	救急コース	4名
	合計	19名

今月より連載スタート!

今月のちかもり食

患者さんへ提供する食事や職員食堂、そるとの給食など当院の給食業務はエームサービス株式会社に業務委託をしています。食事は、患者さんの日々の楽しみであり、栄養の源です。毎日の食事を安全に美味しく食べてもらうよう工夫をしながら、心を込めて調理しています。今月から、患者さんへ提供する行事食や季節の食材、いのちのスープなどを毎月紹介していきます。是非、皆さんも近森病院の"食事"を知っていただければと思います。

臨床栄養部
管理栄養士 部長
宮島 功
みやじま いさお

【いのちのスープ】さつまいものポタージュ

10月18日(火)

紹介者 エームサービス株式会社
近森病院本館事業所
沼 亜弥さん
ぬま あや

「【いのちのスープ】さつまいものポタージュ」の提供を行いました。辰巳芳子さんレシピによるいのちのスープの提供は今回で第61回目となります。

さつまいもは高知県産の「キラポテト」を使用しており、赤い色が鮮やかで糖分が多く味わい豊かで甘いのが特長です。

「スープサービス」について詳しくはこちらから ➡

人事考課研修開催

2022年10月13日・17日
2日間で4班開催
オンライン／参加186名

株式会社エイトドア 下田静香代表による人事考課応用研修をリモート開催で行いました。今回は伝え方(内容、話し方)の影響について、コミュニケーション理論や事例検討を通じて学びました。

2022年9月16日

第8回 ー看護のこころをつなぐー CHNS 誓いのセレモニー

※CHNS…Chikamori Hospital Nursing School

今年のテーマ

支え愛 助け愛 繋がり愛

看護師への思いを胸に

近森病院附属看護学校 1年生
黒川 早紀 くろかわ さき

入学して半年、学校の先生方、講師の先生方から医療・看護について学んでいくなかで、初めは聞き慣れない医療用語や、コロナ禍の行動制限など、今までとは違う環境に戸惑うこともありました。

セレモニーを行うにあたり、感染対策を常に念頭に置き、先生方のアドバイスをいただきながら試行錯誤を繰り返し、8期生45名で助け合い無事セレモニーを迎えることが出来ました。そして、これから始まる臨地実習に向け看護師になるという思いを誓いのセレモニーを通し、より一層強く感じることができました。

10月からは基礎看護学実習Ⅰが始まります。この実習では、看護師の役割を学び、専門職としての姿勢を少しでも身につけることを目標にしたいと思います。

「人の気持ちに寄り添い、つながりを大切にする」「助け合い、支え合う関係を築く」「物事を柔軟に考え、学び続けること」この3つの誓いを胸に、これから始まる実習で、少しでも多くの学びを得ることができるよう、仲間とともに助け合い、支え合い、努力を続けていきます。

「支え愛」をコンセプトにした誓いのセレモニー

近森病院附属看護学校
1年生主担当
松浦 美樹 まつうら みき

9月16日、第8回「看護のこころをつなぐ誓いのセレモニー」が行われました。今年度は、学生たちが決めた「支え愛、助け愛、繋がり愛」というコンセプトのもと、学生同士で支え、助け合い、また自分達を支えて下さっている様々な人との繋がり合いを大切にしたいという思いを込め、セレモニーの準備を進めて参りました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、学校への出入りに制限があったり、クラス全員がなかなか揃って練習することができない日々でした。それでも、クラス全員が団結し、話し合いを重ね練習することで、無事、本番を迎えることができました。また、3年ぶりに臨床との輪を育む会を開催することができました。

当日は快晴で、入学式の時と同様、青空が学生たちの背中を押してくれているように感じました。10月からは、白衣を着て、初めて病院での臨地実習が始まります。このセレモニーで1人1人が宣誓した誓いの言葉を胸に、ぜひ患者さんや病棟スタッフの方々との出会いを大切にした実りある実習を経験して欲しいと思います。

▲ 実行委員の皆さん。好評のポスターは学生が毎年描いています。

▲ 今年のキャンドルはインフィニティマークで、「繋がり」をイメージしています。

▲ 上級生、保護者、法人関係者などに見守られて、力強く、また、たおやかな宣誓がホールに響き渡りました。

熱烈応援 昇格人事

近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

学びの日々

近森病院 5階C病棟
看護師長
岡村 麻美（おかむら あさみ）

様々な部署を経験し、今は一般病棟で学びの日々です。特に退院支援は、患者さん・ご家族・支える人を知り、地域と連携することがどれだけ大事なことか、多職種からの刺激も受け経験させてもらっているところです。チームで関わり、最善を尽くせるように頑張ります。

患者さんの立場にたって

近森病院 北館2階病棟 看護師長
萩原 順児（はぎわら じゅんこ）

医療、組織の変革を意識し、時代の流れとともに変化する状況をキャッチし、柔軟に対応していきたいと思います。また患者さんの立場で先を見据えた看護提供を行い、日々の看護実践を通しスタッフの感じる苦悩や倫理的課題をキャッチしながらマネジメントしていきたいと思います。

コツコツと

近森病院 北館4階病棟
看護師長
竹村 美栄（たけむら みえ）

病棟の舵取りという重責を担うこととなり身の引き締まる思いです。

患者さんやスタッフの声に耳を傾け、相手の立場にたって考え、行動出来るように頑張っていきたいと思います。至らぬ点も多いかと思いますがよろしくお願いします。

寄り添える看護

近森病院 北館5・6階病棟
看護師長
岡本 美嘉（おかもと みか）

近森会に入職し20数年が経ちました。医療や社会環境が変わり看護師に求められることも変わっていますが、患者さんとご家族に寄り添える看護を目指し取り組んでいきたいです。至らぬ点が多々あり、各所でご迷惑をお掛けすると思いますがよろしくお願いいたします。

ハッスル研修医

最高の仲間に囲まれて

初期研修医1年目
城 可方（じょう かほ）

大阪生まれ大阪育ちで、大学から高知にきて高知七年目になります。大阪弁より土佐弁の方が得意になってきました。

呼吸器内科から始まった近森病院での研修も半年が経ちました。自分の力不足に涙することも度々ありましたが、様々な方々に支えていただけたおかげで、少しですが自信もついてきました。いつも困った顔ばかりしてしまいますが、気にかけてくださる方々に「最近いい表情をしているね」と言われることも増えました。

一年目の同期はいつも仲良く優しいので、みんなに会えることが私の毎日の楽しみです。先生方、コメディカル、他のスタッフの皆さんも素敵な方ばかりで、私は本当に人に恵まれました。

いつも優しく、時には厳しく接してくださる近森の最高の仲間に囲まれていることに感謝を忘れず、自分も皆様や患者さんのお役に立てるよう頑張っていきたいと思いますのでこれからもどうかよろしくお願いします。

New face
ニューフェイス

❶所属 ❷出身地 ❸最終出身校 ❹卒業年次 ❺趣味など

村島 侑子（むらしま ゆうこ）

❶ 消化器内科医師 ❷ 東京都
❸ 千葉大学医学部医学科
❹ 2019年
❺ バスケットボールを10年ほどやっていたので体力には自信があります。

リレーエッセイ

パン作り

近森病院 ICU 看護師 久保 悠斗（くぼ ゆうと）

私は趣味でパンを焼いています。中学生の時に友人がお菓子やパンなどを作っていて、それを食べさせてもらった時すごく美味しかった思い出があります。その時から、元々パンが好きだったこともあり、自分で美味しいパンを作って食べたいという思いで始めました。いつも焼く前にパンのこね方や成形の仕方等をYouTubeで勉強しながら作るようにしています。

パンを焼いた後は家族で食べたり、作りすぎた時は友人にお裾分けしたりしています。パンは手ごねで作っているので意外と重労働です。何種類もパンを作ろうとすると腕がパンパンになってしまいます。しかし、パンが美味しそうに焼けて奇麗な写真も撮れて、美味しかったと感想がもらえた時の達成感はすごいです。

美味しいパンを食べることでストレス発散にもなりますし、達成感も味わえるパン作りは最高の趣味になっています。

私の趣味

アイスは低栄養も救う?!

臨床栄養部 管理栄養士 伊東 世奈（いとう せな）

みなさん、アイスクリームが何kcalか知っていますか？ 私はアイスが大好物で1年を通して食べており、冷凍庫にはいつもアイスが入っています。アイスの中でも“31（サーティワン）アイスクリーム”には目がなく、気になる新作や期間限定のフレーバーが発売されると必ず足を運んでしまいます。たくさん種類がある中で好きなフレーバーが選べることは幸せを感じられます。

アイスクリームは意外にもたんぱく質を摂取することができる優れもので、食欲がなく摂取量が少ない患者さんの間食に紹介することがよくあります。約200kcalあるアイスクリームは間食にもちょうどよく、患者さんも「アイスなら！」と言ってくれることが多いです。

アイスクリームが嫌いな人はあまり聞いた事がありません。ぜひみなさんも食欲がない時に限らず、仕事で疲れてリフレッシュしたい時など、これから寒い時期にはなってきますが、暖かい部屋で食べるアイスも最高なので食べてみてください。

FREE 私の〇〇（まるまる）

〇〇にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「愛娘」

近森病院 7A病棟 看護師 小松 真依（こまつ まい）

今回私の愛しい娘2匹をご紹介させて頂きます。先住猫のちび（三毛、10歳）と後輩猫の黒豆（ハチクロ、1歳）です。2匹とも縁あって我が子となりましたが、日々の癒しと共に深夜に大運動会を始めて叩き起こされたり、噛み付かれてERを受診したりと憎らしさも併せ持ったとても可愛い愛娘達です。

仕事終わりに“猫を吸い”、共に遊び、共に寝て、1日1日を大切に過ごしながら、1分1秒でも長く共に生きていきたいと思います。

歳時記

職員の皆さんから届いた、季節の風景の便り

秋の山辺で見つけた彼岸花と、圧巻の越知のコスモス祭り。

●写真ご提供：
診療情報課 中山久江さん

「モネの庭」の「モネのナイトキャンバス」と、流れがなく鏡のように映った早朝の舟入川。

●写真ご提供：
総合心療センター 山内学さん

あなたの撮ったお写真でひろっぱ誌面を飾ってみませんか？ ご応募お待ちしております。歳時記受付QRコード（職員限定）➡

看護学校通信

献血セミナー「命の絆 －闘病生活から得られた献血の大切さを伝える」

2022年9月30日

近森病院附属看護学校 副学校長
平瀬 節子 ひらせ せつこ

9月30日、学園祭の前日祭としてアナウンサー笠井信輔さんによる献血セミナーを行いました。冒頭に、2019年に悪性リンパ腫が判明しコロナ禍で厳しい闘病生活を送る笠井さんを支えたケアは、22人の看護師の優しさ・詳しさ・即応性であったというお話の後、ご自身の輸血の体験談があり、献血の大切さを学ぶ機会となりました。患者としての笠井さんの言葉は、今の時代が求める看護師の姿だと心に刻むことができ、夢に向かって頑張る学生へのエールとなりました。講演後に学校で献血を実施し、学生34人が参加しました（内、28人が400ml献血を実施）。

四国管財さんのユニフォームが変わりました

10月1日～

創立60周年を機にピンクからブルーに一新されたとのこと、いつもお掃除ありがとうございます。

▶冬用のブルゾン

編集室通信

霜降の時期、十三夜の名月がほっこり輝き、コロナ感染症の対応に疲れた職員を和ませる。紅葉が最盛期を迎え、木に残された完熟した柿や木の実には鳥たちが大喜びで集まり、恵みの秋を享受する。厳しい冬の訪れを前に、人にも生き物にとっても、穏やかで幸せな季節である。今年は特に身に染みる。

Ratty

診療数 令和4年9月

―― 電子カルテ管理課 ――

● 近森会グループ

外来患者数	18,258人
新入院患者数	994人
退院患者数	965人

● 近森病院（急性期）

平均在院日数	12.78日
地域医療支援病院 紹介率	82.93%
地域医療支援病院 逆紹介率	273.95%
救急車搬入件数	557件
うち入院件数	293件
手術件数	469件
うち手術室実施	317件
うち全身麻酔件数	229件

人物ルポ Reportage
Vol.363

人生曲線は大波小波 落ちては藁をも掴んで 這い上がり、新しい挑戦へ

平瀬節子
Hirase Setsuko

近森病院附属看護学校 副学校長
認定看護管理者
キャリアコンサルタント
キャリアトランプ®認定講師

聞き手／ひろっぱ編集部

働きながら大学、大学院へ進学し高知大学医学部看護学科の教員をした後、県立病院で看護部長として勤めあげ、近森病院附属看護学校の副学校長に。順調にキャリアを積んでいる印象だが、その人生曲線に拡大鏡を当てると落ちては登りの連続。「自分でも付き合いかねてますけど、夫からは『習性』と言われ納得。楽天的なのでなんとかなった」と過去を振り返った。

現場の看護師から教員へ

県立病院で働いて9年目を迎えた時に人事異動で県立看護学校の教員となった。「看護の仕事が楽しく、知識もある程度身についていたので、学校でも教えることができると思っていたのですが全くダメ。培ってきたことが音をたてて崩れ落ちていきました」。近森看護学校の前副学校長、尾原喜美子先生とはその頃からの縁。若手教員と実習場所の師長さんという関係だったが、「あなたは勉強をしているの？人に教えるには自分が学んでないと…」と厳しい言葉をもらった。

この言葉が後押しとなり、働きながらの大学進学を決意する。その後も節目節目にピンチ（谷底）がやってきたが、そのたびに助けてくれる先輩や仲間がいた。

通信大学で初めてのレポートを書く際、一字も書けずワープロを窓から投げたくなるほどパニックになった。その時は、友人（現・徳島大学教授）が、自分が書き留めたメモをつなぎ直してレポートの骨格を示してくれた。「次の一歩が踏み出せるサポートをもらって、それからは、だんだん自分の力で書けるようになりました。この経験が教育者である私の根っこにあります。『馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない』ということわざがありますが、私の場合は本人の“できる”“わかる”にたどり着くように、もうちょっと手を差し伸べたいと思っています」。できなかった経験があるからこその、学生や後輩看護師への平瀬流の寄り添い方である。

趣味は夫婦で山登り 母を支える善き家族

「趣味は夫にのっかっています。一生懸命に山を登っていると頭がからっぽになって清々しいですね」。夫のことを「うちの板長」と称し、平日は料理を作ってもらったり、今はウォーキングコースを探してもらったりと、うまく頼っている。ただ過去には、仕事の比重が増して子どもとの関わりが少なかった時期もあり、悔いが残る。

「子どもの遠足がミカン狩りだったのに、お弁当にミカンを入れたことがあるのですよ」と告白。鉄板ネタだろうが、働く母にとっては共感すべき失敗。現在、二人のお子さんは、理学療法士と社会福祉士になり人を助ける仕事に従事。きっと本人が思っているより「母親」をしていただろうし、母の背中を見て育ったからこそ選んだ職業ではないだろうか。

●もう一つの顔、「キャリアコンサルタント」

キャリアトランプ®講師の資格も持ち、研修でも好評を得ている。これは自己分析にもなり、他者（仲間）理解にもつながる。先生自身もこのツールで、「教育と現場を行きかうキャリアを中途半端」と考えていたセルフイメージから、「経験豊か」という考えにシフトできたという。

近森看護学校副学校長として

近森看護学校に赴任して2年。「スピード感と発信力がすごいと感心する。それと全教員が学生一人ひとりの可能性を信じて伸ばしていこうという熱い思いと姿勢がありますね。私も一緒に頑張りたいと思います」。

どん底に落ちては、仲間や先輩にサルベージ（救助）されてきた実体験があるからこそ、学生や助けを求める人の可能性を信じて手を差し伸べることを惜しまない。「社会では、できたことを褒めてもらえる機会は少ないですよね。だから自分でできたことを確認して、ありのままの自分を受け入れ、自分にOKが出せることが大切」。特に学生に伝えたいのはこの部分だという。好きな言葉は「成長」と「命まではとられない」である。

社会医療法人 近森会　院内広報誌　ひろっぱ 11月号　Vol.436
発行日　2022年10月25日　　発行者：近森 正幸／事務局：寺田 文彦
高知市大川筋一丁目1-16　TEL.088-822-5231
https://www.chikamori.com/